

令和5年度 埼玉県英語指導方法改善事業 及び
令和5年度 三郷市教育委員会委嘱「英語活動・英語教育推進研究」研究発表会

研究紀要

主体的に学習に取り組む児童の育成
～「わかる」「できる」「楽しい」外国語授業の工夫を通して～



令和5年10月25日(水)

 三郷市立高州小学校



あいさつ

三郷市教育委員会
教育長 大塚 正樹

変化の激しい、予測困難な時代に求められている資質・能力を身につけるためには、「自ら課題を見出し、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出す」ことが大切です。外国語の授業では、言語活動を通して、自分の考えや気持ちなどを伝え合う力を身につけることが目標とされています。

このような中、本市では「小中学校夢応援プロジェクト事業」として、小・中学生を対象に英語検定受験奨励金を交付する等の施策を推進しています。また、令和2年度からは、三郷市小学生英語スピーチコンテストを開催し、発表に向け、授業を通じた取組を行っていただいているところです。

高州小学校におかれましては、令和5年度埼玉県英語指導方法改善事業並びに三郷市教育委員会英語活動・英語教育推進研究委嘱校として、「主体的に学習に取り組む児童の育成～『わかる』『できる』『楽しい』外国語授業の工夫を通して～」を研究主題に掲げ、昨年度から外国語の研究を計画的に推進してこられました。外国語の授業では、児童にとって必要感のある言語活動の場面を設定したり、「English Day」を設け、児童は友達や先生と英語で楽しくコミュニケーションを図ったりするなど、学校全体で外国語に慣れ親しむ環境づくりに努めています。また、デジタル教科書の効果的な活用方法や、オンラインを活用した複数名のALTとのパフォーマンステスト実施など、ICTに係る研修にも力を入れております。それにより、個別最適な学びを実現するとともに、児童がほんものに触れる機会が増し、言語活動の質が向上することを意識した授業を展開していただいているところです。

ご参会の皆様におかれましては、本校の実践を自校に広め、今後の教育活動に生かしていただきますようお願いいたします。

結びに、高州小学校、永沼清美校長先生をはじめ、これまでの研究推進にご尽力いただいた先生方、関係者の皆様に感謝するとともに、今後も研究を一層深め、児童の健やかな成長を支えていただくことをお願い申し上げます。



あいさつ

三郷市立高州小学校
校長 永沼 清美

今年度、埼玉県教育委員会から「埼玉県英語指導方法改善事業」の研修協力校としての指定、また三郷市教育委員会から「英語活動・英語教育推進研究」の委嘱を受けました。そこで、研究主題を「主体的に学習に取り組む児童の育成 ～「わかる」「できる」「楽しい」外国語授業の工夫を通して～」とし、全教職員が一丸となって取り組んで参りました。

本校では、学力に関する各種調査において、学力向上は喫緊の課題であり、特に、自分の考えを伝える力の個人差がみられました。そのため、昨年度から外国語の研究を始め、「主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる児童の育成」を目指し、「必要感」をキーワードとして、学校共通の授業展開や場面設定の工夫について研究を進めました。

また、昨年度から毎週水曜日を「English Day」として設定し、朝・授業・休み時間・下校時の挨拶を英語で行うことにより、児童の英語でのコミュニケーション力が高まり、外国語の授業でも「自分の考えを伝えられる」「楽しい」と感じる児童が増加してきました。さらに、デジタル教科書の活用や、遠隔地にいる複数名のALTと行う「オンライン・ブレンディッド」による授業は、児童の興味・関心をより一層高め、主体的に学習に取り組む姿に繋がりました。

本日は、本校の実践の一端をご高覧いただきますが、今後も研究を進めなければならない課題が多くあります。皆様から忌憚のない御意見・御助言を賜り、今後の研究に生かして参ります。

結びに、本校の研究推進にあたり御指導いただきました埼玉県教育局市町支援部義務教育指導課 杉崎 亮 様、埼玉県教育局東部教育事務所 柳本 盛 様、三郷市教育委員会教育長 大塚 正樹 様をはじめとする三郷市教育委員会の皆様、本研究に関わっていただきました多くの皆様に、心より感謝申し上げます。あいさつといたします。

研究概要

研究主題

主体的に学習に取り組む児童の育成
～「わかる」「できる」「楽しい」外国語授業の工夫を通して～

本校児童の実態

本校は平成28年度から算数科の研究を進め、児童は少しずつ算数の学力を向上させてきた。その一方で、授業中自分の考えを伝えられる児童とそうでない児童の二極化が本校の課題である。

また、埼玉県学力・学習状況調査の「教科の学習が好きか」という質問で、4～6年のほぼ全ての教科で「好き」と回答している児童の割合が県の平均を下回っている。

主題設定の理由

本校児童の実態から、何事にも主体的に取り組む力をつけていきたいと考える。算数科の研究を通して、「わかる」「できる」ことで、「楽しい」と感じ、児童の物事に取り組む姿勢が改善したことから、外国語においても「わかる」「できる」「楽しい」授業をすることで、主体的に取り組む児童を育成し、児童の可能性を広げ、社会で活躍できる力をつけてほしいと考え、上記のような研究主題を設定した。

目指す児童像

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる児童

仮説と手立て

仮説1

学校共通の指導法を基に、児童の実態に応じた指導を行えば、コミュニケーションの仕方がわかり、楽しく活動することができ、コミュニケーション能力が高まるだろう。

手立て

○学校共通の指導法の確立

・全職員で指導法や授業の流れを確認し、学校共通の指導法でどのクラスも同じように授業を進める。

○系統的な指導の確立

・担当学年だけでなく、全職員で全学年の学習内容をつかみ、発達段階に応じた系統的な指導を行う。

○児童の実態の把握

・授業の様子やふり返り、アンケートなどで各クラスの実態を把握し、授業改善に役立てる。

仮説2

必要感のある場面設定をし、くり返し同じ外国語の音声を聞いて慣れ親しむことで、児童は自分の考えや気持ちを伝え合うことができるようになるだろう。

手立て

○場面設定の工夫

・必要に迫られる場面設定を行うことで、児童が必要感を感じながら学習に取り組めるようにする。

○目標の明確化

・CAN-DO リストと外国語活動・外国語指導一覧表を活用し、目標を明確にすることで、教師も児童も授業に取り組みやすくする。

○場面設定による言語活動の充実

・授業中目標となる外国語を伝える場面を設定し、言語活動を充実させ、考えや気持ちを伝えることに慣れるようにする。

仮説3

校内や生活場面で外国語に触れる環境を整えたり、児童が興味を持って取り組むことができる言語活動を授業に取り入れたりすることで、児童は主体的にコミュニケーションを図るようになるだろう。

手立て

○校内環境の整備

・外国語に触れる機会を増やせるように、校内の環境を整備し、外国語への意欲を高める。

○English Day の設定

・毎週水曜日を English Day とし、外国語に触れる機会を増やし、外国語への意欲を高める。

○言語活動の工夫

・他の教科や学校行事などに関連した内容を取り扱い、興味を持って取り組むことができるようにする。

研究組織

研修推進委員会

校長・教頭
研修主任・研修推進委員

研修全体会

専門部会

授業研究部
環境整備部

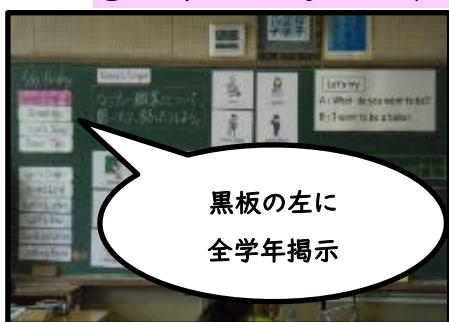
各部会の取組（2年間）

（1）授業研究部

《授業研究部のねらい》

指導方法や授業形態について全職員で共通理解を図り、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる児童を育成する。

① 学校共通の指導法



Today's schedule

外国語活動・外国語 Unit・言語材料一覧(3~6年)	
4年	5年
Hello, world! [世界のいろいろな国をわいわいせよう] Hello. Good~. See you. I like~. Good bye.	Hello, friends. [名前や好きなもの、ことを伝えよう。] How do you spell your name? My name is ~. I'm ~. I like ~. I don't like ~. What ~ do you like?
Let's play cards. [好きな遊びをつたえよう] How's the weather? It's~. Let's~. Yes, let's. Sorry. Stand up. Stop. Sit down. Walk. Jump. Run. Turn around.	When is your birthday? [誕生日やほしいものを伝えよう] When is ~? My birthday is ~. What do you want for ~? I want ~. This is for you. Here you are. Thank you.

外国語・外国語活動指導一覧表の活用

外国語 基本の授業の流れ	
①Greeting	②Sing
③Small Talk	④Today's Target
⑤Practice	⑥Main Activity
⑦Writing time	⑧Looking Back

外国語授業の流れ



振り返りカード

校内研修や研究通信を通じて、全職員に学校共通の指導法の共通理解を図った。そのことで、教師が外国語の授業をしやすくなっただけでなく、児童に見通しをもたせて学習することができた。学校共通の指導法を確立することで次の学年に上がった際も、スムーズに外国語の授業に取り組むことができるようになる。

② 言語活動の場面設定の工夫



オンライン・ブレンディッド授業



実際の将来の夢についてのやりとり

言語活動を行う際は、児童の伝え合いたいという思いを大切に場面設定を行った。「オンライン・ブレンディッド」授業で身近な人を遠方のALTに紹介したり、実際の友達の将来の夢についてのやりとりをしたりしたことで、児童が意欲的に言語活動に取り組む様子が見られた。

③ ICT（タブレット）の活用



やりとり場面でのタブレットの活用



中間指導での動画の活用

やりとりをタブレットで撮影した。撮影した動画を見ることで、児童が学習を振り返ることができ、教師も全員を評価することができた。

また、撮影した動画をテレビに映し、中間指導にも役立てることができた。

④ 他教科との関連



6年 家庭科との関連



Yellow!

3年 体育での英語の活用

What color?

より学習効果を高めるために、カリキュラム・マネジメントの視点をもって授業を行った。6年生は、家庭科の栄養素の学習を生かして「オリジナルカレー」を考える単元を作った。3年生では、体育の跳び箱運動の学習で、楽しみながら運動させるために、英語での「色」を生かして学習をした。

⑤ English Day の設定



Good morning!!

登校時のあいさつ



I'm fine!!

健康観察(英語)

毎週水曜日を English Day とし、校内でのあいさつや放送委員会の放送を英語で行い、英語を身近に感じられるようにした。最初は英語を話すことに苦手意識や恥ずかしさを感じるがあった児童も、繰り返し英語に触れることで、自然に英語であいさつをしたり、会話を楽しんだりすることができるようになった。昼の放送では、英語で放送するだけでなく、英語の歌を流し、児童が英語を楽しんでいるようにした。



Stand up!!

授業のあいさつ



Hello everyone!!

昼の放送

English Day のタイミングに合わせて、業前学習の時間に、英語の学習を全校通じて行った。NHK for school を活用し、その日の授業のメインとなるセンテンスに関わる動画を視聴し、センテンスを聞いたり、話したりした。高学年ではそれに加えて、児童の実態に応じて授業の予習や復習を行った。その結果、授業にスムーズに入ることができ、学習が深まった。

⑥ 業前学習の充実



週1回の英語の業前学習



授業の予習や復習

(2) 環境整備部

《環境整備部のねらい》

児童一人ひとりの実態を把握し、環境整備に努めることで、英語に対する関心を高めさせ、意欲をもって学習に取り組めるようにする。

《具体的な取組》

言語環境の充実

①各学年の学習にそった掲示

児童が毎日通る階段・廊下にピクチャーディクショナリーより抜粋した英単語の掲示を行った。

- ①罫線を入れることでノートやプリントに書いたときと同じように見える工夫。
- ②英単語が読めなくても、挿絵を入れることでその単語が何を意味しているのか分かる工夫。そのことにより、g・pなど下まで書かなければいけないものなどの書き方の確認もできた。また、絵と組み合わせることで、絵と文字をつなげて見慣れるようにした。



低学年の階段には、児童に身近な日常でよく使う英単語(色・動物)を掲示した。



中・高学年では、日常で使う英単語に加え、英語の学習の中で頻繁に使われる英単語(数の数え方・曜日・月など)を選び掲示した。

②職員室前の掲示

全児童が通る職員室前には、英語の基本となるアルファベットの掲示をした。足を止めて、教員の質問に答える姿があった。また季節に合った掲示物を貼り、児童が掲示物から外国語に興味を持てるようにした。



③特別教室の名称の表示

特別教室の表示の上に、英語での表示を掲示した。日本語と英語の両方の表示があることで、日常的に英語を目にする環境を整え、読めなくても英語の意味が分かるようにした。



④業前学習の充実

業前学習の英語の業前学習における教材準備を行った。低学年で使う動画や英語の歌の選定、中・高学年で使う読み書き教材の精選を行い、学習内容の定着を図った。



令和5年度 校内研修 研究記録（3年）

1 単元名 Let's Try!! Unit4 「I like blue.」

2 単元のゴール

「I like ～. Do you like ～? Yes, I do. / No, I don't.」などの表現を身に付けさせるために、単元のゴールを『好きなものを紹介し合おう』に設定した。

3 研究主題に対する仮説と主な手立て

仮説1

学校共通の指導法を基に、児童の実態に応じた指導を行えば、コミュニケーションの仕方がわかり、楽しく活動することができ、コミュニケーション能力が高まるだろう。

○発達段階に応じた指導の工夫

あまり英語に慣れていない児童でも英語表記と発音をすぐに関連付けられようにするために、フラッシュカードにはイラストや英語表記以外にもカタカナで読み方を加える。見慣れない単語にも安心感を持って発音できるようになると考える。

仮説2

必要感のある場面設定をし、くり返し同じ外国語の音声を聞いて慣れ親しむことで、児童は自分の考えや気持ちを伝え合うことができるようになるだろう。

○教科を横断した活動とタイムを競う活動を取り入れた学習の工夫

国語科の「もっと知りたい友だちのこと」では、よい質問の仕方、よい話し方について学習した。そこでは話し手から、より多くの話を聞きだす聞き方や相手に伝わりやすい話し方についても学習した。国語で身に付けた言語活動を英語でできるようになるよさを感じさせることにより、学びを深めていく。

道徳科の「アメリカから来たサラさん」の学習では、外国の人々との間にある言語や文化、考え方の違いについて学習した。オリジナルレインボーを作成する学習でも国によって虹の色の種類や数に違いがあることや、人によって好きな色が違うことにも触れ、多様な考え方を認め合う雰囲気づくりをしていく。

また、タイムを計測する活動を取り入れることで、ゲーム性を持たせ、意欲的に活動させることができる。クラスで協力し、「もっと答えたい。」「もっと話したい。」と楽しみながら学習できる場としていく。

仮説3

校内や生活場面で外国語に触れる環境を整えたり、児童が興味を持って取り組むことができる言語活動を授業に取り入れたりすることで、児童は主体的にコミュニケーションを図るようになるだろう。

○English Day の活用

毎週水曜日の English Day には、英語であいさつをする。他教科でも、積極的に英語を活用することで、外国語に親しませる。また、朝読書や国語に時間に英語で書かれた本の読み聞かせすることにより、外国語をより近いものとして捉えさせる。

4 成果

- ・キラメイジャーは、興味をもててよい。(仮説1)
- ・ケニアの「I like black.」をよく聞けていた。(仮説1)
- ・第1時なのに、色を言える子が多かった。発表をよくしていた。(仮説1)
- ・色の単語の上にカタカナがあってわかりやすかった。(仮説1)
- ・歌の速さを遅くしていてよかった。(仮説1)
- ・Our Goal があるのは、学習の見通しを持ててよい。(仮説2)
- ・色を限定しないことで、児童の本当の思いや考えを表現できた。(仮説2)
- ・最初からとてもよい雰囲気だった。(仮説3)
- ・Greeting を大きな声でして、意欲的に取り組んでいた。(仮説3)
- ・カラータッチゲームで、ゲーム感覚で楽しく学んでいた。(仮説3)
- ・肯定的な声かけ、リアクション(仮説3)
- ・ほかの国の虹の色の紹介がよかった。(仮説3)
- ・ほかの国の文化にふれる機会になっていた。(仮説3)

5 課題・課題に対する手立て

- ・はだ色という表現をせず、パールオレンジ、ライトオレンジ、うすだいたい、などと指導するとよい(仮説1)
- ・英語で言えない色を使いたいときには、担任か ALT の先生に言い方を聞く。(仮説1)
- ・矢印のマグネットの色が見えづらかったので、明るい色にする。(仮説1)
- ・虹の掲示物の色が薄くて見えづらかったので、マジックでぬるか、パソコンで出すとよい。(仮説1)
- ・英語のトークを児童に前でいきなり行わせるのは、難しい。何回か練習してから、上手にできているペアにやらせてはどうか。(仮説1)
- ・友達に自分のオリジナルレインボーを伝えるときに、色の言い方がわからない児童がいたので、途中で使用した色を伝えたり、練習したりするとよい。(仮説2)
- ・虹つくりに関時間がかかってしまったので、カラータッチゲームをなくすか、虹つくりを使う色の種類を減らす、ボランティアをへらすなど時間を調整する。(仮説3)
- ・カードにすでに色がぬってあり、自分の時に何色がくるかわかってしまっていた。(仮説3)



令和5年度 校内研修 研究記録（5年）

- 1 単元名 NEW HORIZON Elementary English Course5 Unit 3 「What do you want to study?」
- 2 単元のゴール
「What do you want to study? I want to study～. What do you want to be? I want to be a～.」などの表現を身に付けさせるために、本単元のゴールを『夢に近づく時間割(DREAM Schedule)を作成しよう』に設定した。
- 3 研究主題に対する仮説と主な手立て

仮説1

学校共通の指導法を基に、児童の実態に応じた指導を行えば、コミュニケーションの仕方がわかり、楽しく活動することができ、コミュニケーション能力が高まるだろう。

○学校共通の指導法

学校共通の授業の流れに則り授業を展開することで、学年ごとの指導法の違いによるつまづきを防ぎ、児童が安心して、外国語を学ぶことができるようにする。また活動の意図をつかめない児童が一定数いることから、活動内容が明確になるように説明を端的にしたり、デモンストレーションを見せたりすることで、全ての児童が「わかる」「できる」「楽しい」を感じられる場を保证する。

仮説2

必要感のある場面設定をし、くり返し同じ外国語の音声を聞いて慣れ親しむことで、児童は自分の考えや気持ちを伝え合うことができるようになるだろう。

○伝える場面設定

毎時間目標となる外国語を伝える場面を設定し、繰り返し自分の考えを伝えることで、自信を持ってやり取りができるようにする。また、本単元ではペアや学級全体でのやり取りに加え、オンラインブレンディッド授業を取り入れる。ALTと直接対話をするという必要感のある場面設定をすることで、言葉が通じ合うことの楽しさを十分に感じさせ、自分の考えや気持ちを主体的に伝え合えるようにする。

仮説3

校内や生活場面で外国語に触れる環境を整えたり、児童が興味を持って取り組むことができる言語活動を授業に取り入れたりすることで、児童は主体的にコミュニケーションを図るようになるだろう。

○言語活動の工夫

他の教科や学校行事などに関連した内容を取り入れる。例えば、6月上旬に実施した道徳「言葉のおくりもの」の学習で、自分や友達の新たな一面を発見したり、互いの違いを実感したりすることができた。その人間関係を生かし、「夢に近づく時間割を友達と紹介し合う」活動をすることで、友達の良いところを見つけ、互いを認め合うことの大切さについて実感させ、より主体的に取り組むことができるようにする。

4 成果

- ・単元の流れの掲示が分かりやすくよかった。また、黒板のタイムスケジュールが見やすかった。(仮説1)
- ・導入がスムーズで、スピード感があり、本時の授業でこれを話せるようにするぞというモチベーションが高くなっていた。(仮説1)
- ・意味がわからない、伝えられない子にも中間指導でジェスチャーを入れることを伝えていた。(仮説1)
- ・活動のゴールが明確であるため、子供たちがその過程に対して必要感をもっていた。(仮説2)
- ・言語活動の時間の確保がされていた。(仮説2)
- ・実際に外国人と話すことで、必要感がある場面設定となっていた。(仮説2)
- ・中間指導を行い、良さを広げたり、助言をしたりしていた。(仮説2)
- ・オンラインの進め方が明確で、スムーズに進んでいた。(仮説2)
- ・クラスの雰囲気がよく、みんな楽しそうに取り組んでいた。(仮説3)
- ・みんな興味をもって取り組んでいた。(仮説3)
- ・先生の表情・声がよかった。児童にもよい影響を与えていた。(仮説3)

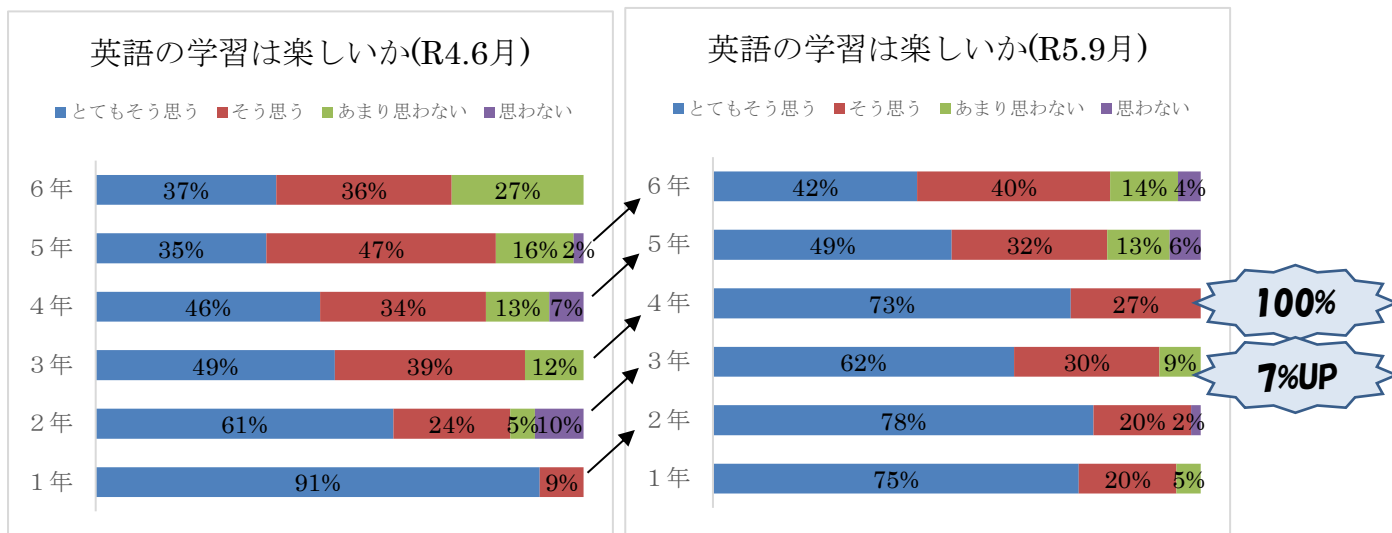
5 課題・課題に対する手立て

- ・相手からどう見えるか(声の大きさ、表情、発音等)を意識する声かけがあるとさらによい。(仮説1)
- ・中間指導のタイミングを減らし、1回目はなしで、2回目のみでもよかった。(仮説2)
- ・3人組で、両サイドの子がカメラから見切れていたため、ALTを増やして2人組で取り組むか、話す人がセンターに移動するとよい。(仮説2)
- ・単語の確認の後に「様々な職業があったね。」「いろいろな人に聞いてみよう。」となりたい職業を伝える意味づけをする。(仮説2)
- ・相手の画面より、自分たちの画面を大きくして保存していただき、送ってもらうことで、自分自身を客観的に振り返る機会にできる。(仮説2)
- ・座席の並び方を丸く並べるなど、オンラインブレンディッドのやり取りが見やすい隊形にすると、教師が把握しやすい。(仮説3)
- ・オンラインでのやり取りで、タブレットを交換する順番を決めておくと、待たなくて済む。(仮説3)



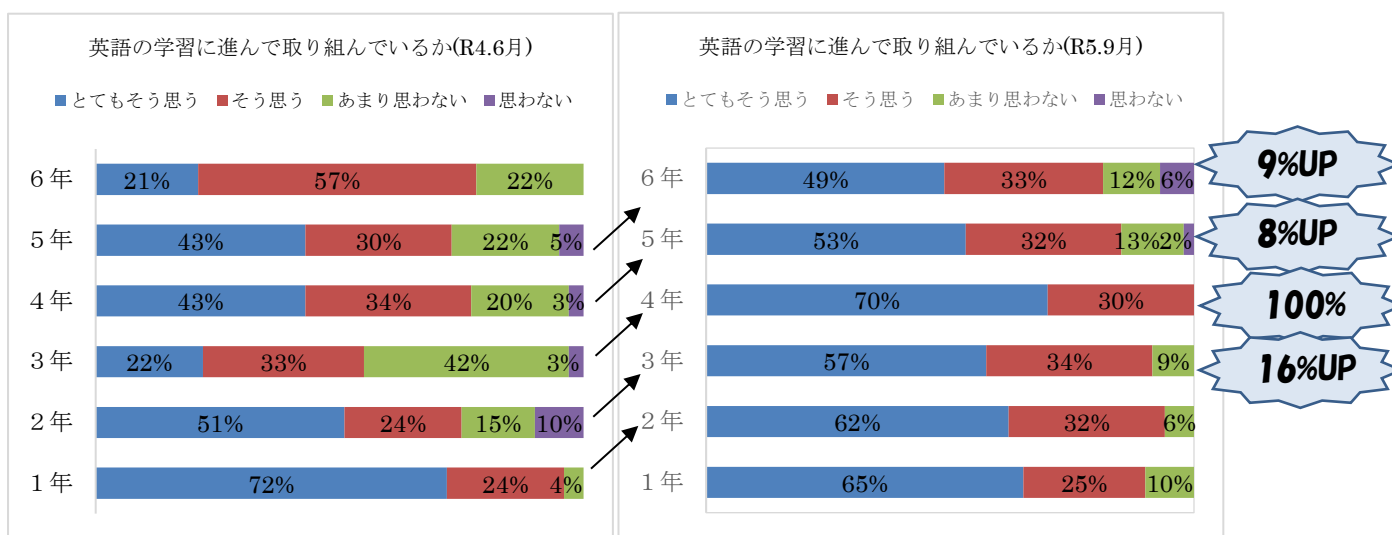
意識調査結果・考察

研究主題に関わる実践検証のため、令和4年6月(一部令和5年)と令和5年9月、同じ内容で質問紙(アンケート)調査を行い、児童の英語に対する意識の変容を分析した。内容は主体性に重点を置いたものとした。



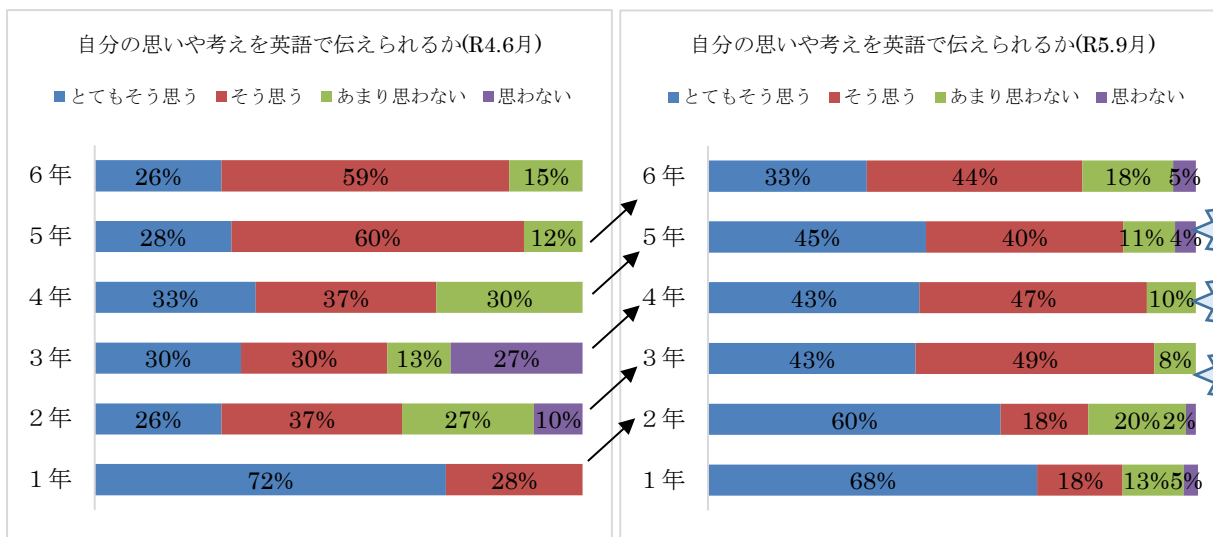
全体的に楽しいと感じている児童の割合が向上した。理由として、次のようなことが考えられる。①学校で指導法や「授業の流れを統一し、教師が授業を行いやすくなったこと、②児童が夢中になって楽しみながら取り組める授業を行うことができるようになったこと、③児童の実態に合った指導により児童ができることを実感することができたこと。

一方で、高学年では2割程度の児童は楽しいと思っていないため、全ての児童が楽しさを感じられる授業の実践の研究を一層進める必要がある。



全体的に進んで取り組んでいる児童の割合が向上した。理由としては次のことが考えられる。①必要感のある場面設定を取り入れた単元づくり、②授業中に英語でのアクティビティの学習の流れに慣れ、児童が進んで取り組めるようになったこと、③English Day や業前学習で英語に触れる機会が増えたこと。

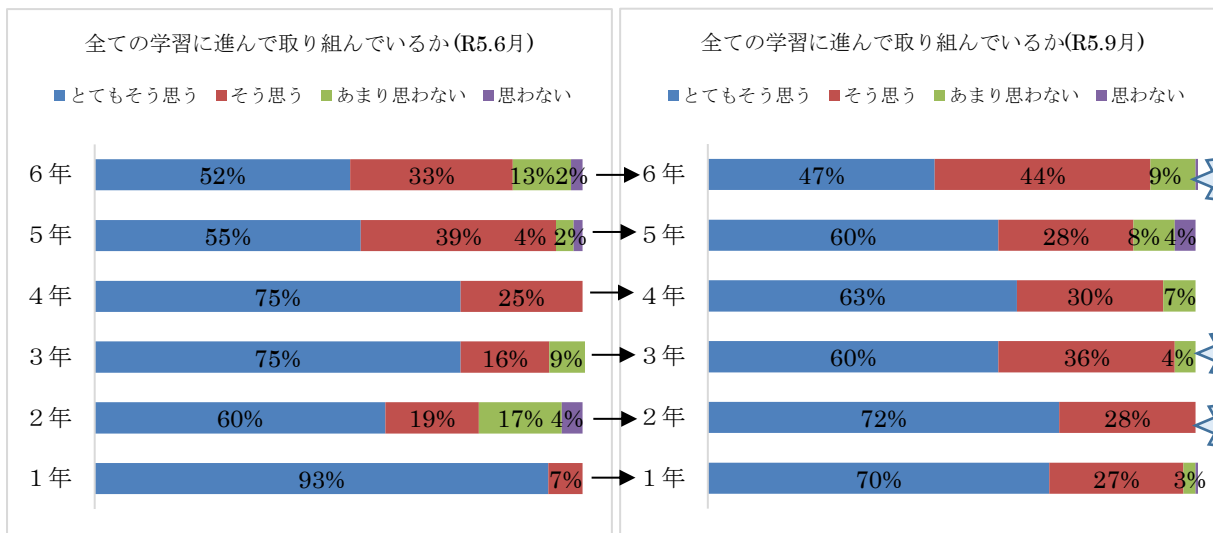
一方で、各学年に進んで取り組んでいると思わない児童が一定数(6~18%)いるため、そういった児童も進んで取り組めるように、学校全体で取組の工夫を一層していく必要がある。



15%UP
30%UP
29%UP

全体的に伝えられる児童の割合が向上した。特に3年生・4年生・5年生の増加率が著しい。その理由は①ブレディッド授業や普段の授業で伝える機会を多く設定したこと、②場面設定を工夫することで必要感を感じた児童が多かったこと、③自分が英語を話している映像で自分の能力を確認したこと、④English Dayであいさつを英語で行ったことである。

一方で、6年生の伝えられると感じている児童がやや減っている。内容が難しく言いたいことを児童がうまく言えないと感じていることが考えられるため、個別に表現方法の練習を繰り返し行ったり、定着しづらい表現をスキルタイムで補ったりしていく必要がある。



6%UP
5%UP
100%

全体的に大きな変化は見られなかったが、進んで取り組んでいると思う児童の割合が2年生は大きく向上し、3年生・6年生で少し向上した。変化が大きかった2年生では、教師が、児童が意欲的に取り組める授業の工夫をしていることが要因と考えられる。進んで取り組んでいると思わないと感じている児童は、今年度の学習が進み、以前より内容が難しくなっていることや得意でない学習が明確になってきたことが要因と考えられる。外国語の学習を生かして、児童が進んで取り組める授業の展開を全教科で行っていく。

研究の成果と課題

成果

- ・学校共通の指導法を活用することで、担任やALTが授業を進めやすくなり、児童は見通しをもって授業に臨むことができるようになった。
- ・系統的な指導をすることで、既習の内容を活用したり、次年度の学習を知らせたりし、児童が学習のつながりを以前より意識することができるようになった。
- ・授業の様子やふり返り、アンケートなどで児童の実態をつかみ、実態に合わせた指導を行うことで、児童がコミュニケーションの仕方を理解し、楽しく行うことができた。
- ・必要に迫られる場面設定を行うことで、児童は外国語を学習する必要感を感じ、学習に進んで取り組むことができた。
- ・CAN-DO リストと外国語活動・外国語指導一覧表を作ることで、教師も児童もその単元での目標となるフレーズをしっかりと理解して取り組むことができた。
- ・授業の中で、くり返し考えや気持ちを伝える活動を行うことで、外国語で気持ちや考えを伝えることに慣れてきた。
- ・外国語に触れる機会を増やすために、校内環境を整備したり、毎週水曜日を English Day に設定したりしたことで、児童の外国語に対して抵抗感が薄れた。
- ・外国語・外国語活動の授業にあたり、教科横断的な視点をもって実施することで、他の教科の学習内容を深めることができた。

課題

- ・外国語の授業を楽しく感じていない児童や目標となるフレーズを言うことができない児童がまだいるため、児童全員が「できた」「わかった」「楽しい」と感じられる授業の展開の工夫を一層進める必要がある。
- ・必要に迫られる場面設定をした実践において、児童が現実味を感じず、必要感を感じていないことがあるため、より必要に迫られる場面設定を行っていく。
- ・ALTとの打合せの時間が不足し、授業の流れが途切れてしまうことがあったので、学校全体で打合せの時間を計画的に設定したり打合せの内容項目を整えたりしていく。

御指導いただいた先生方

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事	杉崎 亮 様
埼玉県教育局東部教育事務所学力向上推進担当指導主事	柳本 盛 様
三郷市教育委員会教育長	大塚 正樹 様
三郷市教育委員会学校教育部長	菅原 成之 様
三郷市教育委員会学校教育部副部長	田口 貴子 様
三郷市教育委員会学校教育部参事兼指導課長	西村 美紀 様
三郷市教育委員会学校教育部指導課指導係長	矢野めぐみ 様
三郷市教育委員会学校教育部指導課主任指導主事	中山 達也 様
三郷市教育委員会学校教育部指導課指導主事	加藤 雄大 様
三郷市教育委員会学校教育部指導課指導主事	長嶋 真平 様
三郷市教育委員会学校教育部指導課指導主事	杉山 雄哉 様
三郷市教育委員会学校教育部指導課指導主事	柏 ひとみ 様
三郷市教育委員会学校教育部指導課指導主事	桑島 敦 様
三郷市教育委員会学校教育部指導課指導主事	赤城 雅史 様

研究に携わった教職員

校長	永沼 清美				
教頭	谷口 利恵				
主幹教諭	佐々木直樹				
教諭	山下 歩	析窪 舞	新屋 梨花	溝口 明子	東 菜津季
	大塚 唯歩	馬場 朝日	島崎 友菜	関口 純平	小寺 一裕
	花岡 辰也	西山 大輔	松下 遼太郎	横田 和子	平澤 洋美
	伊是名 亜侑美				
養護教諭	富高 和佳子				
事務主任	市川 諒				
一般事務	杉田みのり				
学校校務員	飛里 彌生	福岡 和夫			
学校図書館司書	浅野 薫				
ALT	アイリン・ミラグロサ				